



compass

コンパス

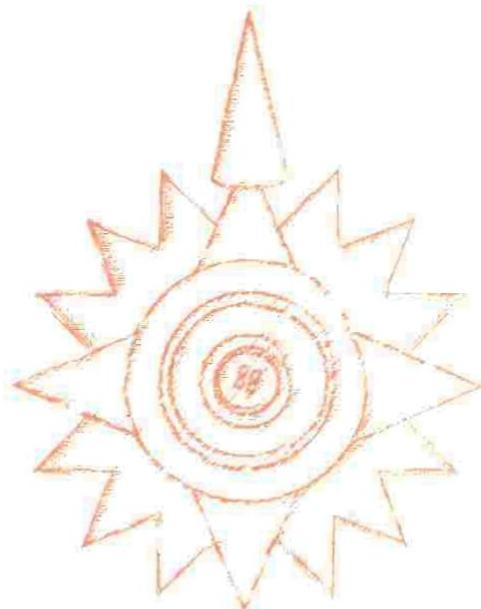
# 保育原理

— 未来を生きる子どもの保育 —

2017年告示 幼稚園教育要領、保育所保育指針 準拠  
幼保連携型認定こども園教育・保育要領

編著：田中敏明

共著：伊勢 慎・尾花雄路・金丸智美・川俣美砂子・徳安 敦  
永淵美香子・前田志津子・松井尚子



建帛社  
KENPAKUSHA

## まえがき

日本に初めて幼稚園ができた1876（明治9）年頃、日本の人口は約3,500万人だった。ベビーブームの1948（昭和23）年には、8,000万人となり、その後も人口は増え続け、1967（昭和42）年には1億人を超える。1950（昭和25）年頃からしばらくの間は急増する人口、多すぎる人口が大きな問題になっている。この頃の「厚生白書」では、急激な人口増による「過剰人口」にどのように対応していくのか、ということが政策課題として取り上げられている。しかしながら、ピークとなった2012（平成24）年の1億2,800万人から一転して減少が始まる。我が国は、人口減少社会というこれまで経験したことのない時代を迎えたのである。今後10～20年の間に、今ある仕事の5割以上がロボットやAIにとって代わられるといわれている。その一方で平均寿命はさらに延び、人生100年時代となる。いま園で日々活動している子どもたちはこのような時代を生きていく。その道は決して平坦ではない。

保育は、どんな時代であろうと変わりなく、しっかりと育てておかなければならないものがある。それとともに、やがて来る時代を予測し、新しい時代をいきいきと、幸せに生きていくために必要な資質・能力を見極めて確かに育てることが、これからの保育に求められる。

2017（平成29）年、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が大幅に改訂（定）された。その中で、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」という生きる力の基礎を育むための3つの柱を、幼児教育から一貫して育てることが打ち出され、幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園においては、この3つの柱を10項目の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とともに幼児教育を行う施設として共有する事項が示された。

豊かな時代の最盛期であった1990（平成2）年に施行された幼稚園教育要領、保育所保育指針では、保育の目標が心情・意欲・態度を中心に設定され、子どもの主体的な活動、言い換えれば子どもがしたいと思うことをする保育が求められてきた。知識や思考力が保育目標として前面に出されるのは長い保育の歴史の中で今回が初めてである。このあたりにも時代の大きな変化を感じ取ることができる。こうした中で、本書の執筆者は、未来を生きる子どもたちにとって本当に必要な保育とは何かを絶えず問いかけながら筆を進めた。

本書が、未来社会を生きていく子どもたちのための保育を創る一つの道標になれば幸せである。

2019年3月

執筆者を代表して 田中敏明

# 目 次

## 第1章 子どもたちの現状と子どもたちが迎える未来社会 1

- 1 子どもたちの現状 ..... 1
  - (1) スマートフォンやタブレットの普及 1
  - (2) 子どもを取り巻く危険な環境 5
  - (3) 家庭環境の視点から 6
- 2 子どもが迎える未来社会予測 ..... 10
  - (1) AI（人工知能）化の視点から 10
  - (2) 豊かさの視点から 12
- 3 日本の子ども・世界の子ども ..... 13
  - (1) 自己肯定感 13
  - (2) 日本の子ども 14
  - (3) 地球の子ども 14

## 第2章 保育の意義・役割とこれからの課題 17

- 1 保育とは何か ..... 17
  - (1) 子どもを守る立場から 17
  - (2) 子どもの育ちと援助 18
  - (3) 就学前施設（保育所、幼稚園、認定こども園）の保育 19
- 2 保育の目標 ..... 21
  - (1) 保育所における保育の目標 21
  - (2) 幼稚園における保育の目標 23
  - (3) 認定こども園における保育の目標 23
- 3 これからの保育の課題 ..... 24
  - (1) 教育要領と学習指導要領の改訂 24
  - (2) 幼児教育を行う施設として共有すべき事項 24
  - (3) 家庭や地域の教育力 27
  - (4) 保育者不足と保育者の質の低下 28
  - (5) 都市部の保育環境 28

## 第3章 保育の場 31

- 1 保育所，幼稚園，認定こども園 .....31
  - (1) 保育所，幼稚園，認定こども園の共通点 31
  - (2) 保育所，幼稚園，認定こども園の違い 32
- 2 家庭と地域の機能と役割 .....35
  - (1) 教育基本法に定める家庭の責任 35
  - (2) 家庭の役割 35
  - (3) 地域の教育的機能 36
- 3 保育所，幼稚園，認定こども園の役割 .....37
  - (1) 保育所の役割 37
  - (2) 幼稚園の役割 37
  - (3) 認定こども園の役割 37
  - (4) 共通の役割 38
- 4 保育の現状と課題 .....38
  - (1) 園数と園児数の推移 38
  - (2) 保育の現代的課題 41

## 第4章 保育の多様性 45

- 1 幼稚園教育要領・保育所保育指針等が求める保育 .....45
  - (1) 環境を通して行う保育（教育） 45
  - (2) 環境を通して行う保育（教育）の実際 48
  - (3) 計画と評価 50
- 2 日本の保育の特色 .....51
- 3 モンテッソーリ教育 .....52
  - (1) 敏感期 53
  - (2) モンテッソーリ教具とお仕事 53
- 4 プロジェクト法 .....54
  - (1) レッジョ・エミリア・アプローチ 54
  - (2) プロジェクト法と日本の保育 55
- 5 韓国のテーマ中心型保育 .....56
  - (1) テーマ活動 56
  - (2) 保育者の役割 56

6	ニュージーランドのラーニングストーリー	57
(1)	テ・ファリキ	57
(2)	ラーニングストーリー	57

## 第5章 保育課程・教育課程と指導計画 61

1	計画の必要性と種類	61
(1)	なぜ計画を立てるのか	61
(2)	保育課程・教育課程と保育計画	62
2	保育計画を作成する	62
(1)	保育課程・教育課程	62
(2)	年間指導計画	66
(3)	日案	68
3	保育課程・教育課程、指導計画作成の見直し	69

## 第6章 保育の質を高める 73

1	保育記録の取り方	73
(1)	保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育記録	73
(2)	保育に生かす記録	74
(3)	記録から読み取れること-記録することの意味-	75
2	研修の選択と実際	77
(1)	園内研修の実際	77
(2)	園外研修の選択	78
3	環境の構成と保育実践のポイント	79
(1)	実践経過	80
(2)	保育者の配慮	82
(3)	実践の分析	82
4	保育評価	83
(1)	実践の振り返り	83
(2)	環境の構成としての温度計	84
5	保育の質を高める	84

## 第7章 子育て支援、家庭・地域との連携 87

- 1 日本の子育て支援の現状と課題 .....87
  - (1) 子育て支援の歩み 87
  - (2) 保育の中の子育て支援 90
  - (3) 諸外国の子育て支援 93
  - (4) 日本の子育て支援の課題 94
- 2 就学前施設と地域との連携 .....94
  - (1) 就学前施設と地域との連携の現状 95
  - (2) 地域における子育て支援の課題 98

## 第8章 人間性を育てる 101

- 1 人間性を育てることの大切さ ..... 101
    - (1) 人間性とは何だろう 101
    - (2) 人間性の現状 102
    - (3) 未来社会と人間性 103
  - 2 人間性を育てる保育 ..... 103
    - (1) 乳幼児期の人間性の発達 103
    - (2) 何を育てるのか 104
    - (3) どのように育てるのか 105
  - 3 人間性を育てる保育の実践 ..... 108
- 資料1 様々な人間性を育てるときに役立つ絵本リスト ..... 113
- 資料2 保育関連法規 ..... 115
- 索引 ..... 125

# 子どもたちの現状と 子どもたちが迎える 未来社会

## 第1章

子どもは自らの生きていく力と周りの環境との関わりの中で育っていく。第1章では現代の子どもたちがどのような環境の中で、どのような状況にあるのか、未来社会を生きていく子どもたちに保育は何ができるのかという2つの観点から、これから求められる保育について考察する。

## 1 子どもの現状

「ゾウの卵の大きさは、どのくらいの大きさでしょう？」と尋ねられると、「えっ、ゾウは卵を産まないでしょう」という答えが返ってきそうである。もちろんゾウは卵では生まれてはこない。しかしゾウの命はおなかの中の1個の受精卵から始まる。人間の子どものも母親の中のたった一つの卵（細胞）から始まり、細胞分裂を繰り返し、約10兆個といわれる細胞で目も鼻も骨も脳も作られ、その中の細胞が再び新しい卵となる。人類が地上に誕生して以来このことが繰り返され、これからも人の生命や地球や太陽が続く限り連綿と繰り返されていく。こうして生まれてきた子どもは、自ら生きようとする力を発揮して環境と関わりながら発達していく。胎児を含めた子どもを取り巻く人、物、社会、文化、自然という現代の環境は、子どもの発達にとって決して望ましいものばかりとはいえない。現在の子どもの置かれている現状はどうだろうか。

### （1）スマートフォンやタブレットの普及

スマートフォン（以下、スマホ）は多機能で利便性が高いものとなり、保護者のスマホ所有率は90%を超えるといわれる。子どもは生まれたときから、目に映る生活の風景の中にスマホを使用する大人の姿が溶け込んでいる。子どもは当然のごとくスマホに興味や関心を示し、大人と同じように使ってみたいと思う。大人から見せてもらった写真や動画を自分で操作し、知っている人との

\* 1 SNS

「Social Networking Service」(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の略でインターネット上で人と人とのつながりを支援するサービス。

通話には自分も参加する。成長するにしたがってSNS<sup>\*1</sup>やネット検索、音楽や映像の視聴、デジタル図書、IoT<sup>\*2</sup>による様々なサービス等、活用の世界が広がっていくことになる。

生活に密着し、利便性に富んだスマホだが、ネガティブな点として① ゲームやネットサーフィン等の依存、② コミュニケーション能力の低下、③ 視力低下、④ 姿勢不良、⑤ 運動不足や小児メタボリックシンドローム、⑥ ネット犯罪(サイバー犯罪)、⑦ 傷害事故等、多くの問題点が指摘されている。

\* 2 IoT

「Internet of Things」の略。例えばバスの位置情報や到着予定時間をスマホで知ることができる等、従来インターネットにつながっていなかったモノがネットワークを通じてインターネットにつながり、情報のやり取りができる仕組み。

1) 依存

世界保健機関(WHO)は国際疾病分類(ICD-11)で「ゲーム障害」という病名を認定した。ゲーム障害とはゲームへの依存により、ゲームをする時間や場所等に対するコントロールができなくなり、日常生活よりもゲームを優先し、ゲームがやめられない状態で、家族や社会、教育や仕事に重大な影響を与えるほど深刻なものをいう。子どもの生活に影響を及ぼす依存の問題としては、スマホやネット依存がある。平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要<sup>1)</sup>によると、2歳から6歳児で1日平均3時間以上テレビやビデオを見たり、ゲーム機やタブレット等を使用したりしていた子どもは、平日で2割、休日で4割であった。また、ベネッセ教育総合研究所の2017年の調査(0~6歳)<sup>2)</sup>では、家庭にスマホがあり、これを使用している乳幼児の18.5%が1時間以上利用している。使用内容は写真、動画、音楽の視聴が多い。ゲームは1歳児が6.5%で6歳児は41.2%と増加している。6歳児の子ども専用携帯型ゲーム機の所有率は37.4%である。将来ゲーム障害にならないためにも、他のおもちゃ等と同じように、使用時間や内容を子ども自身で自律的にコントロールできるようになることが大切である。生活の中で自立性・自律性を高めていくためには、外から与えられたプログラムで言われたとおりに行動するのではなく、自分の心でコントロールしていく力を育てることが保育の場でも重要になる。

1) 厚生労働省『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』2018, p.22.

2) ベネッセ教育総合研究所「第2回乳幼児の親子のメディア活用調査報告書」2018, p.20, p.21, p.27.

2) コミュニケーション能力

電車に2歳ぐらいの女兒と保護者が乗車し並んで座った。するとすぐに保護者はスマホを取り出ししきりに画面を操作しはじめた。下車するまでの40分間途切れることなくその動作は続いた。その間2回ほど女兒が保護者の方を見て言葉を掛けたが、保護者は子どもの顔をよく見ることなくスマホの画面を見ながら返事をしていった。このような光景は特別に珍しいことではなく、時々見かけるようになった。電車に乗ると、幼い子どもにスマホを渡し動画などを見せられている姿を見かけることも多い。中には音漏れしないようにヘッドフォンまで

用意している保護者もいる。ベネッセ教育総合研究所の2017年の調査（0～6歳）<sup>3)</sup>では、スマホ等を子どもが使う場面として多いのは、外出先の待ち時間や子どもが使いたいとき、子どもが騒ぐときや自動車や電車での移動中等であり、お互いの顔を見合わせて交流を図る機会が減少していると推察される。

赤ちゃんは生理的的微笑みや社会的微笑み等、いつも笑っているというイメージがある。しかし、最近、笑わない赤ちゃんが増えてきているという。人と関わる力が十分に発達していない子どもも見受けられる。コミュニケーション能力の育ちには幼少期からの絆の形成が大切だといわれるが、社会的な動物である人間は本能的に群れる力（集団欲）をもっており、その働きは快不快等の情動に関する扁桃体等によるといわれている。群れて泳ぐ小魚の扁桃体相同領域を破壊するとその魚は集団行動をしなくなるという実験結果がある<sup>4)</sup>。子どもの微笑み等の働きかけに応じる関わりがないと、扁桃体の機能が十分に発達しないという。

保護者自身がスマホ等の依存の場合もある、子どものコミュニケーション能力を育てるために、授乳やおむつ交換をはじめ、あらゆる保育の場面において、顔を見合わせることで子どもの発信する思いを受け止め、表情や言葉で応えていきたいものである。

### 3) からだへの影響

#### ① スマホと姿勢不良

正常な首は少しカーブをして、頭を支える際のクッションになっているのに対して、スマホを使いすぎると首が直線に近くなりクッション性がなくなる。この状態では頭を支える首の筋肉等に負荷が掛かり、肩こり、首の痛み、頭痛、めまい等が起こる。さらに肩が内側に巻き込まれることも加わり、血液やリンパの流れも悪くなるといわれている。保育の中でも正しい姿勢を心掛けるような言葉掛けをしていきたい。

#### ② 視力低下

親の世代に比べ、幼児、小学生、中学生、高校生とも視力1.0未満の人が増えており、小学校と中学校は過去最高となった<sup>5)</sup>。テレビやスマホだけが原因とは限らないが、一定の距離を長い時間見続けることにより、目の筋肉が固まり、疲労することによりピント調節能力の弱まりや視力の低下が起きていると考えられている。また画面を凝視することによりまばたきが少なくなり、目が乾燥し病気にかかりやすくなるという。さらにスマホから出ているブルーライトはエネルギーが強く、長時間浴びると目が傷つくおそれがある。保護者は子どもにとって生活のモデルでもある。保護者が子どもへの適切な環境を用意す

3) 前掲書2)と同じ、p.34.

4) 坪川達也「社会行動と魚の脳」慶應義塾大学日吉紀要 自然科学, 26, 1999, p.6.

5) 文部科学省「平成29年度学校保健統計(学校保健統計調査報告書)」2018, 表10.



写真1-1 秋の自然を生かして

るとともに、保護者自身が自らの適切な使用時間や正しい姿勢等に対する意識がもてるように、保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭をいう）は情報を発信していかなければならない。

### ③ 身体活動量の低下

子どもたちが心身ともに健やかに育っていくためには、適度な運動が必要である。ところがスマホやタブレットを使う時間が増えると一般的には部屋の中の遊びが増え、身体活動の時間が減少すると考えられる。実際にはテレビ視聴の時間がスマホ使用の時間に移行したことも考えられるが、いずれにしても脳やからだの成長を刺激する身体活動を伴った遊びの量は減少している。良質な睡眠のためにも就学前施設（保育所・幼稚園・認定こども園をいう）においては十分な身体活動を用意したい。

### ④ ゲームと脳機能

ゲームが脳に影響を与えていることは間違いのないようである。影響については、プラスの実験結果もマイナスの実験結果もある。ゲームといっても、ゲーム自体の内容や質はそれぞれ違う。ゲームをする人の年齢や時間の長短、時間帯等、個々の条件の違いが結果にどう結びついているかも見極めていく必要があるだろう。

## 4) インターネット

インターネットは手軽に情報を収集したり、社会が広がったりするととても便利な道具である。しかし、ネットの世界では残虐な暴力シーンや過激な性描写など子どもに見せることが好ましくない画像や動画があふれ、自殺や犯罪を誘発するようなサイトからの情報発信もある。さらに一つ間違えば犯罪に巻き込まれてしまう恐ろしいものでもある。警察庁によると、2014（平成26）年に出会い系サイトやコミュニティサイトを通じて被害に遭った子どもの数は1,573人であった<sup>6)</sup>。また、ネット上の書き込みによる誹謗中傷は、子どもが被害者

6) 警視庁「平成26年度中の出会い系サイト及びコミュニティサイトに起因する事犯の現状と対策について」2015, 図1.

## 17の目標

- ① 貧困をなくそう ② 飢餓をゼロに ③ すべての人に健康と福祉を ④ 質の高い教育をみんなに ⑤ ジェンダー平等を実現しよう ⑥ 安全な水とトイレを世界中に ⑦ エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧ 働きがいも経済成長も ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩ 人や国の不平等をなくそう ⑪ 住み続けられるまちづくりを ⑫ つくる責任つかう責任 ⑬ 気候変動に具体的な対策を ⑭ 海の豊かさを守ろう ⑮ 陸の豊かさを守ろう ⑯ 平和と公正をすべての人に ⑰ パートナリシップで目標を達成しよう<sup>18)</sup>

平和と人類の福祉に貢献することを願うものである…」であり、このことを念頭に置いて教育・保育を行うことにより、世界の平和と人類の福祉を実現しようとする心情、意欲や態度、知識や技術、判断力や思考力を育み、SDGsの目標の実現へ向けて取り組む未来の担い手が育つことが期待される。

18) 蟹江憲史ほか編著『SDGsと環境教育』学文社, 2017, p.82.

## ● 演習課題

課題1 : 「子どもが危ない」をテーマに調べたり、話し合ってみよう。

課題2 : 幸福や豊かさの質について話し合ってみよう。

課題3 : 2歳児と5歳児のかけっこの様子の違いから自尊心について考えてみよう。